

マカオ旅遊学院(IFT)における文化遺産管理教育

福島, 綾子
九州大学大学院環境計画部門

李, 芷薇

黄, 玉瑩

黄, 翠霞

<https://doi.org/10.15017/2794866>

出版情報 : 芸術工学研究. 10, pp.87-95, 2009-03-31. 九州大学大学院芸術工学研究院
バージョン :
権利関係 :



マカオ旅遊学院（IFT）における文化遺産管理教育

Heritage Management Education at Institute for Tourism Studies, Macau

福島綾子

FUKUSHIMA Ayako

李芷薇

LEI Chi Mei

黄玉瑩

VONG Iok Ieng

黄翠霞

WONG Choi Ha

Authors have conducted a research and an analysis on heritage conservation education provided by Heritage Management Program of Institute for Tourism Studies (IFT) in Macau SAR. This report aims to describe how Heritage Management Program has been developed and is/will be placed in Macau in its unique social context dominated by Casino and Tourism industries.

The IFT's Heritage Management Program has a great emphasis on tourism and business management as well as training "generalists" in heritage management. IFT has strategically developed Heritage Management Program in close collaboration with international organizations such as UNESCO, ICCROM, Asian Academy as well as the Macau SAR Government. IFT also expected increasing demand for human resources in the field of heritage management particularly due to the World Heritage listing of the center part of the city.

IFT and Macau Government have been making great amounts of efforts to further develop heritage conservation projects and conservation education being backed-up by strong financial sources from the casino industry. IFT plans to set up graduate programs including heritage management in a few years. The structure of industries in Macau, especially whether casino industry would stay as a powerful major industry in Macau, will be one of influential factors in the future direction of heritage management education.

1. はじめに

本稿では、マカオの公立大学である旅遊学院 (Institute for Tourism Studies, 以下 IFT) に 2005 年に新設された「文化遺産管理 (Heritage Management)」専攻を対象とし、本専攻が、先行する教育プログラムに対し、どのような特徴を創出しようとしているのかを考察していく。特に、カジノ・観光産業が主要産業を独占しているというマカオ社会の特殊な社会的文脈において、本専攻もそうした産業に影響を受け、協調する形での教育方針やカリキュラムの設定が求められていることが想定される。こうした仮説に対し、考察をおこなってゆく。



図1 旅遊学院(IFT)のキャンパス

調査方法は、福島による現地での参与観察、関係者へのインタビュー、そして第2～4著者である文化遺産管理専攻3年生（2007-2008年度時点）による情報収集である。

2. マカオの概況と産業

埋め立てを繰り返しながら増え続けるマカオの総面積は2008年現在29.2km²。香港の約38分の1である。2008年7月時点での総人口は約55万人、香港の約13分の1である¹。実質450年近いポルトガル植民地時代を経て1999年に中国に「返還」されたマカオ特別行政区は、カジノ産業に支えられた空前の経済繁栄を謳歌してきた。

マカオは香港と同様に中国の特別行政区であり、かつての欧州の国の植民地という表面的には似たような背景を持つが、それぞれが辿った歴史的な経過は実は大きく異なる。現在のそれぞれの社会的性質や産業構造も全く違うものになっている。

マカオと香港の最大の社会的な差異は、香港の主要産業が株や不動産取引であることに對し、マカオは、カジノと観光業がほとんど唯一の主要産業、ということである。マカオのサービス業全体は2006年GDPの96%を占め、カジノと観光業がGDPの50%以上を占める²。

2002年、マカオ政府は、それまで長らく地元系の一社に独占させていたカジノ経営の参入権を開放、その結果、地元資本、アメリカ資本、香港資本などの計6社がこれまでに新規参入、カジノ産業の競争と更なる拡大をもたらした³。同年2002年に中国政府が本土居住者のマカオ渡航規制を緩和したことにより、本土からの旅行者が激増した。結果、2006年にマカオのカジノの売り上げ額は、ラスベガス抜いて世界一になった⁴。マカオ政府の歳入の実に75%がカジノ関連税からのものである⁵。カジノ産業の拡大に刺激され、新たなホテルやショッピングモールの建設、リゾート開発も急増した。香港同様、マカオにおいても不動産が投機対象となり、2007年の平均不動産価格は前年比30%上昇、物件取引数は約62%増となった。こうした不動産のほとんど全てが投機であり、転売による利益を狙うものである⁶。異常なまでの経済成長は、カジノ・観光産業の人手不足、人件費高騰をもたらした。マカオ市民、とりわけ若者の多くはカジノ産業へ仕事を求めるようになった。高い学歴が要求されず、高収入が期待できるカジノ産業は、若者にとって大きな魅力だという。急激なカジノ産業の成長の影響を受け、製造業や伝統的な形態の小規模ビジネスは相次ぎ閉鎖、マカオの伝統文化の衰退・消滅へとつながっている。

カジノ経営権を保有する企業は毎年、法律に基づき、カジノ収入の1.6%の額を政府系の財団である澳門基金会(Macao Foundation)に寄付することが規定されている⁷。

カジノ産業の成長を受け、この寄付金は増加を続け、2006年度は合計110億日本円強にものぼった(1パタカ=約12日本円)。

マカオの文化財行政・文化財教育は、他の政策・事業同様、財源のほとんどをカジノ・観光産業に依存している⁸。そのため、文化財行政・教育そのものが、これら産業なくしては成り立たないと考えられる。

3. IFTの概要

IFTはマカオ政府が1995年に創設した観光ビジネス教育を核とする公立大学である。創設時の専攻は「ツーリズム・ビジネス・マネジメント」と「ホテル・マネジメント」であった。2005年には「文化遺産管理」専攻と「ツーリズム・イベント・マネジメント」専攻が新設された。それぞれの専攻で、4年制の学士号(学士学位, Bachelor of Science)と3年制の高等ディプロマ(高等専科学位, Higher Diploma)が提供されている(図2参照)。

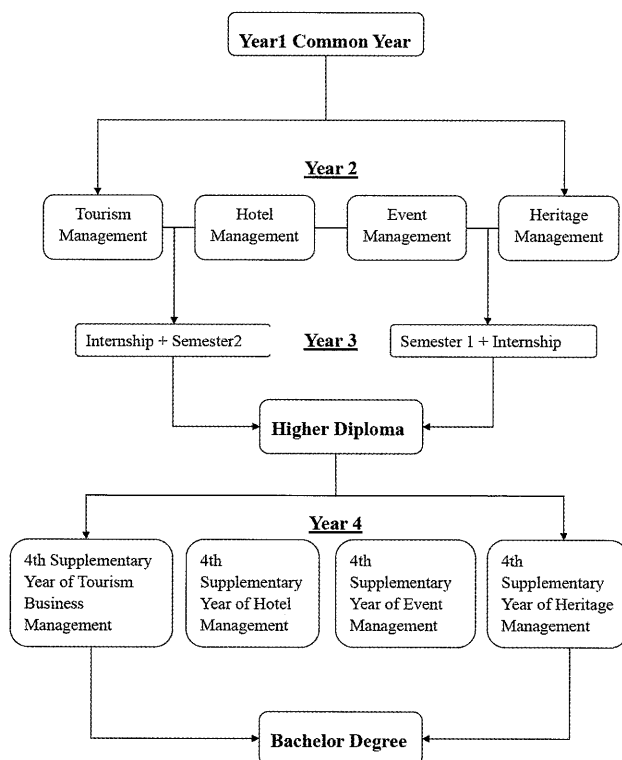


図2 IFTの教育システム

入学時に既に各学生の専攻は決定しているが、1年次は教養課程に相当し、専攻ごとの専門教育が開始するのは2年次からである。教育言語は英語である。2006-2007年度の在籍学生数は840名であった。カジノを含む観光

産業の成長を受け、IFT の学生数は毎年増加を続けており、2006-2007 年度の入試倍率は約 2.8 倍であった。在籍する学生のほとんどはマカオ居住者であるが、マカオの高校生の間では人気の高い大学である。マカオで働く社会人によれば、学生の質の社会的な評価も高いという。

4. IFT における文化遺産管理教育

4.1 文化遺産管理専攻設置の背景

4.1.1 カジノ産業の拡大

文化財に関する新専攻設置の議論が始まったのは、2002 年である。

ツーリズム・ビジネス・マネジメント専攻の教員であるディオコ (Don DIOKO) によると、2002 年のカジノ経営権の開放を受けて、IFT はカリキュラム見直しに乗り出した⁹。カジノ産業の拡大によって、マカオ社会そのものの大きな変化・発展が予想され、新たな人材の需要も予測されたためである。2002 年当時マカオ政府が打ち出した 3 つの優先発展分野が、イベント、スポーツなどのゲーム、そして文化財であった。カジノの発展に伴う観光産業の増大は、文化財保存管理分野のビジネス、新産業としての需要をもたらすと IFT は予測した。こうした社会の変化と政府政策の方向性を見据えた上で、新たに設置する専攻は、「イベント」と「文化遺産」に決定されたのである。

4.1.2 国際組織との連携

IFT は 2003 年以来、アジア・アカデミー (Asian Academy) に組織メンバーとして加盟している。アジア・アカデミーとは、ユネスコとイクロム (ICCROM) のイニシアティブによって 2001 年に構築された、アジア太平洋地域にある文化財関連の教育機関のネットワークである。ネットワークの目的は、文化財保存管理分野における人材育成強化のための相互交流・協力である。IFT は 2003 年の加盟以来、アジア・アカデミー活動へ積極的に参加しており、IFT の文化財保存教育に対する高い関心が窺える。

アジア・アカデミーへの参加準備開始と同時に、IFT は文化遺産管理専攻設置の準備を開始した。2003 年には、IFT はアジア・アカデミーの第 1 回フィールド・スクールをマカオにて共催し、事務サポートを提供している。更に 2004 年にはアカデミーの Strategy Meeting、そしてフィールド・スクール Curriculum Development Workshop を IFT にて開催している。IFT の文化遺産管理専攻が開講し

た 2005 年には、アジア・アカデミーの新規プログラム“Cultural Heritage Specialist Guide Programme”が始まり、IFT はその拠点となり、社会人や一般人対象の継続教育として文化遺産ガイド養成プログラム“Cultural Heritage Specialist Guide Training and Certification Programme for UNESCO World Heritage Sites”を開講した¹⁰。IFT はまたユネスコ・バンコック事務所内に設置されているアジア・アカデミー事務局に積極的に IFT の学生をインターンとして派遣している。2005 年には 2 名派遣の実績がある。

IFT での新専攻設置準備は、IFT のアジア・アカデミー活動と時期を同じくしており、アカデミーで得られる様々な知見を活用する形で進められた。2004 年には、アカデミーの中核組織でもあるイクロムのハーブ・ストーベル (Herb STOVEL) に、IFT の文化遺産管理専攻のカリキュラムの原案作成を IFT は依頼した。更に、香港大学建築学院建築文物保護課程 (Architectural Conservation Program, 以下 ACP) の教員、ユネスコ・バンコック事務所の文化遺産専門スタッフにも、カリキュラム原案の有償のコンサルティングを依頼した¹¹。コンサルティングから得た意見に基づき、IFT のツーリズム系教員が中心となり、他の教育機関の文化財保存教育カリキュラムを参照しつつ、2004 年、最終的に新専攻のカリキュラムを完成させた¹²。

4.1.3 世界遺産登録

文化遺産管理専攻設置準備は、マカオの中心地区のユネスコ世界文化遺産登録推薦準備とも時期的に平行していた。「マカオ歴史地区」が世界遺産リストに正式登録されたのは 2005 年、まさに文化遺産管理専攻開設と同じ年である。ディオコは、マカオ政府による世界遺産推薦・登録の動きは、IFT での新専攻設置のモチベーションを高めた、と述べている¹³。

そもそもマカオの世界遺産登録準備は 1980 年代から始まっていた。しかしながら、マカオの特殊な政治的理由上、すなわち、香港とは違ってマカオの領土は正式にポルトガルに「割譲」されたことはなく、マカオの主権は一貫して中国にあり、ポルトガル植民政府はマカオの「統治権」だけを有している、という事情のため、マカオはユネスコの正規加盟国である中国とポルトガルのいずれから世界遺産の推薦をすることが、制度的、法的、政治的に不可能であった¹⁴。そのためマカオ中心地区の世界遺産推薦は、中国への返還後、領土・主権問題が整理されるのを待つしかなかった。1999 年の返還後、2000 年

にはマカオ政府文化局の文化財産庁において世界遺産の推薦準備が再開された。2001年には推薦書草案がユネスコに提出され、2002年には本申請、その後順調な評価の段階を踏み、2005年の世界遺産委員会で登録が決定した。

文化遺産管理専攻設置は、一貫して IFT 自身のイニシアティブによって進められたが、世界遺産登録に伴って加速する文化遺産観光、そしてカジノ産業の発展に伴う文化遺産産業の需要拡大を見据えつつ、海外の専門機関、マカオ政府機関と巧みに連携を図りながらの戦略的な新専攻設置であったことが理解できる。

4.2 教員

文化遺産管理専攻のコア教員は、シャリフ・シャムズ・イモン (Sharif Shams IMON)、ヒラリー・デュ・クロス (Hilary DU CROS)、オン・チンイー (ONG Chin Ee) の3名である。専攻の中核としての役割を果たしているのはイモンである。イモンは、都市計画・都市保全の専門家であり、2002年当時は香港大学に在籍していた。2002年から IFT にて新専攻準備がなされている時期に、イモンはアジア・アカデミーの香港大学メンバーとしてアカデミーの諸活動に深く関与しており、IFT との協働機会も多かった。ツーリズムの大学である IFT は文化財保存を専門とする教員を擁していなかったため、新専攻をコーディネートし、中心的な教員となる人物として、イモンに対し教員としての新専攻への参加を要請した。2005年に文化遺産管理専攻が開講、1期生が専門課程に入る2006年9月に、イモンは正式に IFT 文化遺産管理専攻の教員として着任した¹⁵。建築、都市計画が専門の常勤教員は IFT 全体でイモンのみであり、他の教員はツーリズムに軸足を置いた社会科学系の専門家である。このことは、IFT の教育特性を表している。

文化遺産管理専攻では、複数の非常勤講師を招いている。主な非常勤講師の所属は、マカオ政府文化局、香港大学 ACP、ユネスコ・バンコック事務所などである。

4.3 学生

2008-2009年度に、文化遺産管理専攻は第4期生を迎えた。専攻は一学年平均40名、各年度の学生数と男女比は図3の通りである。学生の99%がマカオ居住者であり、また日本の中学と高校に相当する「中学 (Secondary School)」を卒業直後、17~20歳で入学してくる学生が9割以上である¹⁶。

学生達が文化遺産管理専攻を選んだ動機としては、2005年のマカオ歴史地区の世界遺産登録が大きいという。

世界遺産や文化遺産という領域に魅かれ、興味を持ち専攻した学生もいれば、マカオでは文化財はまだ未発展な領域であるが故に、世界遺産登録後は、産業として文化財は高いポテンシャルがあるのでは、と考えて専攻した学生もいる。また学生達は、自分達の故郷であるマカオの歴史や文化財を保存していくことに対する使命感、責任感を持って文化遺産管理を専攻しているのだという¹⁷。

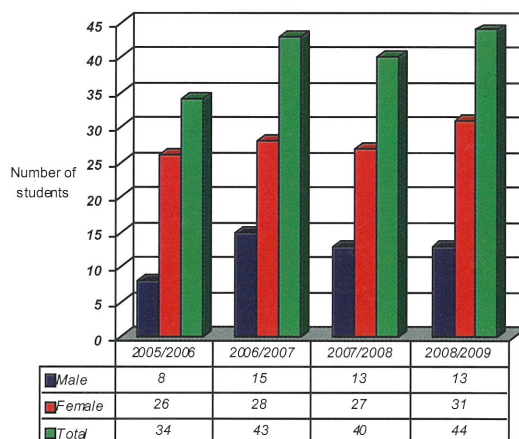


図3 文化財マネジメント専攻 学生数と男女比率

文化遺産管理専攻生のうち、入学時には文化遺産管理専攻は第2希望であった学生が少なくない。就職への道筋が不透明な文化遺産管理より、よりビジネスに直結したツーリズム・ビジネスやイベント・マネジメント専攻の方が学生の間での人気が高く、志願倍率も高い。しかしながら、専門教育が始まってから、授業を通して文化遺産管理への興味、モチベーションを高めていった学生が少なくない¹⁸。

4.4 カリキュラム

1年次の教養課程では、第二外国語、英語、会計、ツーリズムなどを履修する。2年次から文化財保存・管理などの専門教育が始まる (表1参照)。

カリキュラムの最も大きな特徴は、他大学の文化財プログラムには通常開設されている、建築史などの建築系講義や実測・製図・ドキュメンテーションなどの実技演習が4年間を通して全くないこと、そして専攻科目・共通科目のいずれもツーリズムを中軸としたテーマ設定になっていること、ビジネス・マネジメントの要素が色濃いこと、である。従来型の「文化財学」では学ぶことのないこうした実務志向の科目履修については、学生達はそれなりの難しさを感じながらも、自分達の知識・能力の幅を広げることができ、IFT ならではの「多様性」と評価している¹⁹。

授業の多くはプロジェクト形式になっている。学生が個別、或いはグループ単位で、出されたプロジェクト課題に取り組む。例えば、2 年次に必修の「保存の原則 (Principles of Conservation)」という授業では、プロジェクト課題のひとつとして、6 名程度からなるグループそれぞれが有形・無形各 5 つの文化財を南中国地域から抽出・分類し、レポートにまとめるという作業が課される。他の授業においても、ほぼ毎週小規模なプレゼンテーションが課され、また学期末には極めてフォーマルな、学外にも公開した形でのプレゼンテーションが開催される。

表 1 文化遺産管理専攻カリキュラム

1st. Year Common Year

Semester 1		Semester 2	
English - Intermediate I	Computer Applications I	English - Intermediate II	Computer Applications II
Mandarin I / Japanese I / Portuguese I	Introduction to Tourism and Hospitality	Mandarin II / Japanese II / Portuguese II	Organizational Behaviour
Accounting I	Principle of Management	Accounting II	Tourism Destinations
Business Mathematics	Practicum	Economics	Practicum II

2nd. Year Heritage Management

Semester 1		Semester 2	
English - Communications I	Recreation and Leisure Management	English - Intermediate IV	Statistics
Mandarin III / Japanese III / Portuguese III	Financial Management	Mandarin IV / Japanese IV / Portuguese IV	Socio-cultural Issues in Tourism
Introduction to Heritage Management	Marketing for Cultural, Arts and Heritage Resources	Heritage Interpretation	Management Information System for Tourism and Hospitality
Principles of Conservation		Visitor Management	

3rd. Year Heritage Management

Semester 1		Semester 2	
Mandarin V / Japanese V / Portuguese V	Special Interest Tourism	Internship	
Cultural Tourism	Tourism Planning and Development		
Best Practices in Heritage Management	Human Resources Management for Cultural Heritage Organizations		
Tourism and Hospitality Legislation			

4th. Supplementary Year of Heritage Management

Semester 1		Semester 2	
Museum Management	Service Quality Management	Economics of Heritage Conservation	Tourism Product Management
Intangible Heritage	Research Methods	Contemporary Issues in Heritage Studies	Strategic Management
Quantitative Methods for the Service Sector		Seminar on Heritage Management	

プレゼンテーションの実践機会の多さを、学生達はスキル向上のとても良い訓練と受け止めており、また多くのグループ・プロジェクトを求められることについても、仲間や同僚といかに協調しながら協働するか、その中でいかに自分の意見を表明しながら質の高い成果をつくり上げていくか、といったことを訓練する良い機会と感じている²⁰。

文化遺産管理専攻は、アジア・アカデミーなどを通して、香港にて同じく文化財保存教育を提供している大学院プログラムである香港大学 ACP との密接な協働・協力関係を構築している。文化遺産管理専攻の主任教員であるイモンが香港大学建築学院修士生であり、また ACP で非常勤の教鞭を執っていたこともあり、双方のプログラムの教員が毎年、非常勤講師として互いのプログラムにて講義をおこなっている。ACP の設立は IFT よりも早い 2000 年であり、既にアジア太平洋地域でも最も先進的な文化財保存教育機関のひとつとしての地位を確立している²¹。ACP と IFT 文化遺産管理専攻の密接な交流の中では、授業方法に関する経験、問題点の共有などもおこなわれ、互いの長所を取り入れながら、双方のプログラムが成長を続けていることが観察された。



図 4 文化遺産管理専攻専門科目授業における中間発表の様子

4.5 インターンシップ

文化遺産管理専攻 3 年次後期には、合計 6 ヶ月のインターンシップが必修となっている。学内には、教職員から成る「インターンシップ委員会 (Internship Committee)」が設置されており、派遣先探し、履歴書や照会状の書き方指導、派遣先との事務的やり取り、その他様々なアドバイス提供など、学生へきめ細かい対応を提供している。

学生は 1 ヶ所或いは 2 ヶ所の専攻内容に関係するイン

ターン先を見つけなければならない。領土そのものが極めて小さいマカオでは、文化財に関するインターン先は極めて限られている。そのため、第1期生達の少なからずがマカオ外、或いは海外でのインターンシップを実施した。インターン先の正式決定には、インターンシップ委員会の承認が必要となっている。2007-2008年度のインターン先具体例は下記である：英国ナショナル・トラスト（4名）、ユネスコ・バンコック事務所（2名）、香港大學ACP（1名）、西安博物館（2名）、マカオ歴史アーカイブ（4名）、マカオ政府観光局（4名）、マカオ政府文化局文化財産庁、など²²。

本稿第一著者である福島は、第2-4著者であるIFT文化遺産管理専攻3年生3名李芷薇、黃玉瑩、黃翠霞をインターンとして2008年6~9月の3ヶ月間、受け入れた。3名は九州大学芸術工学部をインターンシップ拠点として、福島の研究・教育活動に3ヶ月間参加した。学生達は、1年次から実務研修を積み、職場での適切な振る舞いなどに関する教育を受け続けている為、3名のインターン活動は極めて質の高いものであった。本稿の内容は、3名がインターン中に福島と共にまとめた、自身が受けているIFT文化遺産管理教育に関する整理・分析レポートが基になっている。

学生達はインターンシップ派遣に際し、委員会から「ログ・ブック」を支給される。ログ・ブックは学生による週報・月報、そしてインターン先の監督者による月ごとの評価（コメント）、そして総合評価（コメント及び5段階評価）からなる。インターン終了後、学生が持ち帰ったログ・ブックはインターンシップ委員会に提出される。監督者が記したコメントと評価を委員会がレビューし、学生達の成績評価をおこなう仕組みとなっている。

長期のインターンシップを通し、学生達は、それまで漠然とした理解であった文化遺産管理と社会の実際の関わり、理論の実践への応用を学ぶと共に、自分自身と自分の将来への内省も深める経験をしているのが、福島の経験から観察できた。

4.6 文化遺産管理専攻の課題と今後

2008年時点で開設4年目の文化遺産管理専攻は、2009年5月に第1期生が卒業を迎える。教育プログラムとしては今も実験途上、発展途上にある。

第1期専攻生から聞かれる専攻に対する批評は、文化遺産管理の専門授業が極めて少ない（文化遺産管理に直接関連しない必修科目は約4割）、文化財を対象としてい

るのに、建築に関する授業がないので、製図や図面を読む技能、建築史や様式に関する知識を得られない、というのが主なものである。これらの点については、専攻の教員も問題点を認識しており、対策が採られ始めたところである。2008-2009年度冒頭の9月には、正規のカリキュラム外としてオプション授業“Basic Architectural Drawing for Heritage Students”をIFTで唯一の建築学位を持つ教員であるイモンが開講した²³。授業内容は、建築図面の読み方、製図の基礎であり、3日間連続の短期集中形式でおこなわれた。追加の授業料はなしで、20名程度の定員に限定しておこなわれた。単位の出ないオプション授業であるが、実際には専攻生ほぼ全員が履修申し込みをしたため、募集枠はすぐに埋まり、履修できなかった学生も多く出た。また、1年次に必修科目としていた実務研修(Practicum)を、2008-09年度からは文化遺産管理専攻生については改編し、建築図面の読み方、建築様式・歴史に関する授業に変更する予定である²⁴。

学生達は、卒業後の就職の不安も口にする。間もなく卒業を迎える第1期生は就職活動、或いは進学準備を開始する時期にある。第1期生にとっては先輩の就職実績がないということに加え、あまりにも小さな都市であるマカオ内部で文化財関係の専門職に就くことは限りなく難しいことを認識している。学生達の不安は、先述したように建築などの技術訓練を大学で得られていないことも、大きな要因となっている。従って学生達は、文化財保存の実務へ携わるためにも、卒業後、他の大学院か専門機関での更なる教育・トレーニングを受ける必要性を強く感じている。IFTでは現在のところ大学院教育はないため、必然的にマカオの領土外である香港や中国本土、更には海外への進学を考えなければならない²⁵。そして進学後のキャリアの可能性も、彼らにはまだ見通しがつかない。

イモンは学生の卒業後についてこのように語っている²⁶：IFTの文化遺産管理専攻は、保存専門家(specialists)の教育ではなく、一般教養(general education)である。文化遺産管理専攻の学生も、卒業後は観光・カジノ産業を含むサービス産業に多くが就職することになるだろう。マカオにおいては、観光産業に携わる限り、必ず文化財に関与することになる。したがって、観光産業で働く場合も、文化遺産管理専攻で得られる知識は役立つ。

一方、IFTは文化遺産管理を含めた修士課程設置準備を進めている²⁷。ディオコによれば、修士課程は学部教育

とは逆に、「ジェネラリスト」ではなく「スペシャリスト」の養成を目的としてカリキュラムを組む予定である²⁸。一方イモンは、マカオにおいて大学院レベルの文化財保存専門家を養成する教育機関が必要かどうかについて、こう応えた：学際領域でもある文化財保存の実務は、複数分野の専門家が必要なものであり、必ずしも一人の「保存専門家」が存在しなければ成り立たないというわけではない。

4.7 IFT の継続教育 文化遺産ガイド

IFT は学部教育の他に、社会人向けの継続教育 (Professional and Continuing Education Programmes) にも力を入れており、様々なプログラムを提供している。文化財関係では、アジア・アカデミーの取り組みのひとつとしてユネスコと IFT が共同で IFT に設置したプログラム「世界文化遺産専門導賞員培訓及認証計画 (Cultural Heritage Specialist Guide Training and Certification Programme for UNESCO World Heritage Sites, ユネスコ世界遺産専門ガイド研修と修了証書プログラム, 以下文化遺産ガイド)」がある。カリキュラムは図5のようになっている。



図5 文化遺産ガイドのプログラム

StudyPath(http://www.ift.edu.mo/En/Programmes/paces_UNESCO.aspx)

マカオにおいてツアーガイドはマカオ政府が認定する公式資格であり (Tour Guide License)、有資格ツアーガイドになるためには、IFT の提供する、文化遺産ガイドでも必修となっている Tour Guide Course を修了する必要がある。文化遺産ガイドは、有資格ツアーガイドに更に付加価値のついた資格である。履修条件は、高卒以上で、かつ入学試験に合格しなければならない。

実務資格が学位 (certificate) という形で大学において提

供されるのは、政府と大学が強力に連携した形で「観光」という主要産業を支えている実状を表している。

またこの文化遺産ガイドのプログラム開発には、香港大学 ACP の教員も協力している。学士課程の文化遺産管理専攻でも見られる地域的な広がりを持つ協働体制が、継続教育においても実践されている。

5 結語

2004 年のマカオ政府行政長官による施政報告 (Policy Address) では、「文化遺産の持続的な開発 (development) のための人材育成を目的とする大学教育における文化・芸術分野の強化」、マカオ社会における「学術的な基盤の強化」が謳われている²⁹。世界遺産登録がなされた 2005 年の施政報告では、「政府とビジネス界は継続して、中華と西洋の文化遺産の融合がテーマである文化観光の促進を協力・連携して行う」と述べられると同時に、「教育改革 (educational reform)」を 2006 年から本格始動させると述べている。改革は小学校から大学にまで及び、大学に関しては「質の向上」、そして前年度の施政報告にも見られたように、「人文・社会科学系分野の強化」が再度ここでも明言されている。また質の向上の確保には、大学は「非政府系学術機関との連携に投資することが必要」であるとしている³⁰。これら一連の政策は、本稿で見てきたように、政府と IFT が実践してきたことである。マカオ政府は観光促進のため、都市マカオの歴史と文化財に関する学術研究を精力的にサポートしたことを自負する³¹。2007 年、マカオ政府は政府職員対象に「世界遺産講座」を開催すると共に、週末などの休日に現地見学会を開催した³²。文化財とは直接関係のない公務員にも意識を高めてもらうことが目的だという。

2008 年のアジア・アカデミー第 3 回 Strategy Meeting において、IFT はアカデミーの Knowledge Management hub となることを提案、決定した。2008-2009 年度には、IFT に Heritage Study Center が設置された。学外の実務プロジェクトを受託・実施する組織であり、文化遺産管理専攻教員のイモンがセンター長に就任している。こうした努力の背景には、大学に対する評価の向上という PR 目的もあるだろうが、IFT の絶え間ない教育内容更新・強化に傾注される努力は並々ならぬものがある。

2002 年の時点で、ラマルカ (Lamarca) はマカオ政府の政策を分析し、マカオの文化財の将来を展望している：マカオ政府の政策によると、文化財は、観光産業分野に

においても最重要課題になることはあり得ない。文化が唯一獲得しうる立場があるとすればそれは、観光を促進するための娯楽産業と同等或いはそのパートナーとしてのものである。最悪の場合、文化は、カジノ産業を主とする経済発展政策のバックステージに追いやられる可能性がある³³。

2008年現在、マカオ社会におけるカジノ産業の圧倒性から見れば、ラマルカの展望は外れてはいない。マカオにおける文化財政策は、観光産業、カジノ産業と不可分には存在しえないものであり、それら産業と協調・協働、或いはラマルカの言うように、カジノ産業の規模の大きさに圧倒されないよう、常にそのプレゼンスや意義を強調することが不可避かつ最重要課題として文化財には命運付けられている。文化財がカジノ産業に駆逐されてしまわないよう、マカオ政府は上述したような広報活動や、カジノ産業から文化政策への資金徴収などの取り組みを続けている。

文化財保存管理専門家育成において、香港や他地域とマカオとの差異は顕著である。香港の文化財保存教育はコミュニティの環境保全・都市保全がベースとなっており、また日本の文化財保存は物質的保存に重心を置く傾向にある。IFTは、従来型の文化財保存では常に敵対視される観光・カジノといったサービス産業と一体化した形での専門家あるいはジェネラリストの育成プログラムを、その特異な社会的背景の中で試行錯誤し続けていることが本考察で明らかになった。そしてその背後には、サービス産業を支え、同時に教育改革にもテコ入れをするマカオ政府の存在がある。マカオにおいて見られる、政府、ビジネス界、アカデミアが同調する趨勢は、全てカジノ産業の好調に依るものと言ってもよい。豊富な収入或いは税収に支えられているからこそ、それぞれが文化財への資金を投入することが可能になっている。こうした手厚い文化財政策の持続性は、ひとえにカジノ産業がいつまで好調を続けるかにかかっている。

2008年のアメリカを震源地とする世界的な金融危機は、マカオにも重大な影響をもたらした。2008年9月のカジノの総売り上げは減少に転じ、それを受けた10月の政府税収は2008年で最低を記録した³⁴。カジノ大手によるホテル開発は工事半ばでストップし、多数の建設作業員、そしてカジノ従業員がレイオフされた。また2008年5～10月にかけて中国政府が採った一連の本土旅行者のマカオへの渡航規制が、カジノ産業へ二重の打撃を与えるこ

ととなった³⁵。加熱していた不動産投機も、不動産価格の大幅な下落と共に減速が予想されている³⁶。

IFT文化遺産管理専攻は、マカオ社会の利益に沿った形で文化財保存分野の人材育成において発展すべく努力を続けてきている。しかしながら、マカオ社会と政府の特殊な性質上、経済の縮小によって、文化財政策、文化財保存教育が影響を受ける可能性は否定できない。カジノ・観光産業の成長が止まり、衰退へと向かう事態になった時、マカオ社会における文化財教育・行政のあり方、すなわち、一般教養としての文化財保存教育を継続すべきか、少数精鋭の文化財保存専門家養成へ切り替えるのか、或いはそのいずれの教育もおこなわなくなるのか、といったことをIFTとマカオ政府は再検証することになるだろう。更に、中国への返還前後にマカオ社会が自問した問い、すなわち、マカオの文化・文化財とは本質的に何なのか、といった問いが再び、マカオ市民全体に投げかけられることになる。

謝辞

本稿執筆に際し、下記の方々から教示・助言をいただきました。お名前を記して感謝いたします：Mr. Stephan Chan, Dr. Sharif Shams Imon, Dr. Don Dioko, Dr. Lynne DiStefano, 土居義岳教授。

注

¹ “ESTIMATES OF POPULATION, BIRTH AND MORTALITY, MARRIAGE AND DIVORCE”, http://www.dsec.gov.mo/index.asp?src=/english/indicator/e_dem_indicator_1.html, DSEC, 2008年8月10日

² The World Factbook “Macau”, Central Intelligence Agency, <https://www.cia.gov/library/publications/the-world-factbook/geos/mc.html>, 2008年10月9日；「新聞分析：自由行續收緊 澳門經濟面臨寒冬」中国評論新聞網, 2008年7月15日

³ The World Factbook “Macau”, Central Intelligence Agency, <https://www.cia.gov/library/publications/the-world-factbook/geos/mc.html>, 2008年10月9日

⁴ The World Factbook “Macau”, Central Intelligence Agency, <https://www.cia.gov/library/publications/the-world-factbook/geos/mc.html>, 2008年10月9日

⁵ The World Factbook “Macau”, Central Intelligence Agency, <https://www.cia.gov/library/publications/the-world-factbook/geos/mc.html>, 2008年10月9日

⁶ 江藤和輝, 「活況続くマカオ不動産市場の動向」, 香港ポスト, <http://www.hkpost.com.hk>, 2007年12月3日

⁷ 澳門基金会 2006年度活動報告, 澳門基金会, http://www.fmac.org.mo/Chin/mf2006_annualreport_c.htm

⁸ 本稿において「文化遺産」という用語は、専攻名や世界文化遺産など、固有名詞で使われている場合に使用する。普通名詞としては本稿では「文化

財」という用語を使用する。

- ⁹ IFTにて福島によるディオコへの個人インタビュー, 2008年11月11日
- ¹⁰ IFT, “Professional and Continuing Education Programmes”,
http://www.ift.edu.mo/En/Programmes/paces_UNESCO.aspx, 2008年8月21日
- ¹¹ IFTにて福島によるディオコへの個人インタビュー, 2008年11月11日
- ¹² ケベックにて福島によるイモンへの個人インタビュー, 2008年9月29日
- ¹³ IFTにて福島によるディオコへの個人インタビュー, 2008年11月11日
- ¹⁴ ケベックにて福島によるチャン(Stephan Chan, マカオ政府文化局代副局長)への個人インタビュー, 2008年9月29日
- ¹⁵ 同上
- ¹⁶ 李芷薇, 黃玉瑩, 黃翠霞によるデータ収集
- ¹⁷ 李芷薇, 黃玉瑩, 黃翠霞による情報収集
- ¹⁸ 李芷薇, 黃玉瑩, 黃翠霞による情報収集
- ¹⁹ 李芷薇, 黃玉瑩, 黃翠霞による情報収集
- ²⁰ 李芷薇, 黃玉瑩, 黃翠霞による情報収集
- ²¹ 詳細は参考文献の福島2007を参照
- ²² 李芷薇, 黃玉瑩, 黃翠霞による情報収集
- ²³ ケベックにて福島によるイモンへの個人インタビュー, 2008年9月29日; IFT職員 Louisa Lam による情報提供
- ²⁴ ケベックにて福島によるイモンへの個人インタビュー, 2008年9月29日
- ²⁵ マカオ内では、大学である澳門高等校際学院が建築保存の修士課程を設けているが、このプログラムもやはりツーリズム系・文系の要素が濃い。
- ²⁶ IFTにて福島によるイモンへの個人インタビュー, 2006年10月17日
- ²⁷ ケベックにて福島によるイモンへの個人インタビュー, 2008年9月29日
- ²⁸ IFTにて福島によるディオコへの個人インタビュー, 2008年11月11日
- ²⁹ “Policy Address for the Fiscal Year 2004 of the Macao Special Administrative Region (MSAR) of the People’s Republic of China”,
http://202.175.81.61/policy2007/download/en2004_policy.pdf
- ³⁰ “Policy Address for the Fiscal Year 2005 of the Macao Special Administrative Region (MSAR) of the People’s Republic of China”,
http://202.175.81.61/policy2007/download/en2005_policy.pdf
- ³¹ 参考文献 Lamarca 2002, p64
- ³² 参考文献 吳寧 2007, p9
- ³³ 参考文献 Lamarca, 2002, p67
- ³⁴ “Macau’s casinos mostly trade up following interest rate cuts” Macau Daily Times, 2008年10月9日; “SJM has “good faith” despite external economic factors”, Macau Daily Times, 2008年10月9日; 「＜金融危機＞影響か? カジノの10月税収、今年最低を記録—マカオ特別行政区」, レコードチャイナ, <http://www.recordchina.co.jp/group/g26010.html>, 2008年11月21日
- ³⁵ 「新聞分析：自由行續收緊 澳門經濟面臨寒冬」中国評論新聞網, 2008年7月15日
- ³⁶ “Just what is happening to Macau’s property market?”, Macau Daily Times, 2008年10月12日

参考文献

- 福島綾子, 「香港大學の都市保全教育プログラム」都市政策研究第4号, 2007年9月, pp.79-90.
- 吳寧, 「保護文化遺産、推進文明發展 零七年文化遺産規画方向」『MACAU 澳門雜誌』中文版 総第56期, 澳門特別行政区政府新聞局, 2007年2月, pp.4-9.
- Ferdinand Lamarca, ‘Cultural Significance and Vision of Macao: Are They Compatible? If Not, How to Make Them Compatible?’ *Proceedings of THE*

CONSERVATION OF URBAN HERITAGE: MACAO VISION, Cultural Affairs Bureau, 2002, pp.57-67.